

企画セッション

◆ IoT時代の医療イノベーション ◆

【概要】

第4次産業革命の中核をなすIoT、AI、ビッグデータに代表される技術革新の進展はめざましく、それらを活かしたビジネスモデルがイノベーション創出に展開する期待が膨らんでいる。特に医療におけるイノベーションでは、診療データを含むパーソナルデータの利活用を新しい医薬品、診断支援システム、合理的医療の実現に繋げる動きとともに、臨床現場に導入されるIoTシステムの統合化による高度に自動化された新しい手術等の治療システムを中核とする次世代の病院アーキテクチャーの開発・導入も期待されている。本セッションでは、こうした医療イノベーションの創出に向けて、知財を含め、多角的な観点から、産学官の専門家を交え、討議を行いたい。

【日時】 2019年12月7日(土) 10:00-11:30

【登壇者】

1. 日本製薬工業会 研究開発委員会 専門委員長 赤塚浩之
2. エニシア株式会社 代表 小東茂夫
3. 京都大学医学部附属病院
先制医療・生活習慣病研究センター 特定講師 杉山治
4. 内閣官房健康医療戦略室主査 小松慶太
5. 東京医科歯科大学 リサーチ・ユニバーシティ推進機構 シニア URA
統合研究機構 産学連携研究副センター長 特任教授 藤本 康二(モデレータ)

【登壇者略歴】

1. 日本製薬工業会 研究開発委員会 専門委員長

赤塚浩之 (アカツカ ヒロユキ)

所属：日本製薬工業協会 研究開発委員会 専門委員長

田辺三菱製薬株式会社 医療政策部

1989年 大阪大学大学院工学研究科前期課程修了後、田辺製薬(現田辺三菱製薬)に入社し、新規創薬標的分子の探索からテーマ立案、化合物探索等、主に早期ステージの創薬研究に従事した。2015年から研究分野の渉外活動の一環で日本製薬工業協会での活動を開始し、研究開発委員会の専門副委員長を経て、2018年に専門委員長に就任。医療データやAIの創薬活用等、業界で取り組むべき課題に関して議論している。

2. エニシア株式会社 代表 小東茂夫 (コヒガシ シゲオ)

2017年3月 京都大学経営管理大学院専門職修士(MBA)。1999年に大阪大学経済学部卒業後、金融機関・外資系会計コンサルティング企業・地方自治体に勤務。大企業のグループ経営管理

企画セッション

◆ IoT時代の医療イノベーション ◆

基盤整備プロジェクト等を多数経験。立上げから安定運用に至るプロジェクトマネジメントの知見を有する。

2017年に京大MBA(サービス価値創造プログラム)取得。大学院在学中に社会システムやアーキテクチャのデザイン人材を育成する『京大デザインスクール』、グローバルアントレプレナーを育成する『EDGEプログラム』、医療ヘルスケア・イノベーション起業家人材を育成する『HiDEP』へ参加。

3. 京都大学医学部附属病院

先制医療・生活習慣病研究センター 特定講師 杉山治 (スギヤマ オサム)

2009年 慶應義塾大学大学院理工学研究科後期博士課程修了。ソニー株式会社でパソコン・テレビのソフトウェア開発に従事するも、博士取得を機に国際電気通信基礎技術研究所(ATR)で研究員として研究分野に転向、コミュニケーションロボットの研究に携わる。その後、京都大学、東京工業大学の研究員を経て、現在、京都大学医学部附属病院 先制医療・生活習慣病研究センター 特定講師。ロボット研究で培った人工知能・IoTの技術を医療に応用する研究を行う。

4. 内閣官房 健康医療戦略室 主査 小松慶太 (コマツ ケイタ)

(併) 内閣府 日本医療研究開発機構・医療情報基盤担当室

(併) 経済産業省 貿易管理部貿易管理課

東京大学大学院情報生命科学専攻修了(専門はエピゲノムの解析)。

経済産業省に入省後、貿易管理部にて外為法改正やコツメカワウソの密輸防止等に携わる。

現在、内閣官房健康・医療戦略室において、次世代医療基盤法に基づく認定審査や制度広報等を担当。情報処理安全確保支援士(登録番号: 019196)。

5. 東京医科歯科大学 リサーチ・ユニバーシティ推進機構 シニア URA

統合研究機構 産学連携研究副センター長 特任教授

藤本 康二(フジモト コウジ) ※モデレータ

昭和62年 3月 東京工業大学 工学部 機械工学科 卒業

昭和62年 4月 通商産業省(現経済産業省) 入省

ハーバード大学ケネディスクール(Master of Public Policy) 修了。

2003~2005年 経済産業省医療福祉機器産業室長

2008~2011年 経済産業省 ヘルスケア産業課長(サービス産業課から組織変更)

2011~2019年 内閣審議官 内閣官房健康・医療戦略室 次長 等